

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：32415

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22520475

研究課題名（和文）南九州方言マルチメディア資料アーカイブスおよびデータベース構築に関する研究

研究課題名（英文）The research of constructions for archiving Southern Kyushu dialect with Multimedia.

研究代表者

松永 修一（MATSUNAGA SHUICHI）

十文字学園女子大学・人間生活学部・准教授

研究者番号：40312318

研究成果の概要（和文）：松永・岸江が収集した南九州、特に宮崎県・鹿児島県における在来方言の自然度の高い談話資料のアナログデータをデジタル化し、文字化と音声データの公開の準備を整えることができた。文字化資料の一部は冊子体で公開した。また、新たに奄美大島での調査を進め、奄美大島本島だけでなく、徳之島、加計呂麻島での臨地調査を行い、46 地点の高品質な音声と映像による話者の発話情報を記録・収集し音声言語地図の準備を完了した。

研究成果の概要（英文）：We succeeded in digitization of collected data by MATSUNAGA and KISHIE. The analog materials of the dialect were collected in Miyazaki and Kagoshima Prefecture. We finished the preparation for releasing transcription and voice data. We did fieldwork in Amami Oshima, not only main island but also Tokunoshima-island and Kakeroma-island. And, we completed the preparation for making the Amami Oshima language map.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：言語学、日本語学

キーワード：音声言語地図・デジタルアーカイブ・方言音声・南九州方言・宮崎方言・鹿児島方言・奄美方言

1. 研究開始当初の背景

（1）南九州、特に宮崎県方言の全県的な言語地図化は、『宮崎県言語地図集』（1998）宮崎国際大学（岸江・松永その

他）、「宮崎県方言世代別分布地図」（2000）と行われてきた。『宮崎県言語地図集』は調査期間 1995～1998 年、70 歳以上の生え抜きを対象とした 110 地点を文法、語

彙、言語意識項目について対面による臨地調査を行った。言語地図化における記号化はすべて手作業で行い 170 枚を完成させた。「宮崎県方言世代別分布地図」は 1998 年度から 1999 年度まで県内中学宮崎県下の若年層と 40 代前後の中年層を対象とした通信調査を行った。この調査では語彙・語法・音韻などの項目の使用、馴染み度といった 49 項目を確認するものである。2001～2002 年度「データベースによる音声言語地図の開発・作成に関する研究」では松永・岸江、共に研究分担者としてまた、2003～2005 年度、『声の言語地図』のネットワーク化と『映像の言語地図』開発に関する研究」でもそれぞれ臨地調査を行った。

(2) 松永、岸江の継続的な十数年間に及ぶ調査は、カセットテープでの録音から始まり、MD、DAT、HD 録音機と様々なメディアを用いた研究に変化してきた。当然、収集した資料の中の大多数は再調査不可能なものばかりであるが、実際に公開した資料で用いたのは調査項目のみで、その他の偶然の発話や様々な雑談は埋もれてしまっているのが現状である。しかしながら、使われずに埋もれてしまった資料の中には貴重な言語情報を含むものが多く存在することが、基盤研究(C)「19・20 世紀東京弁録音資料のアーカイブ化」(代表、秋永一枝)に分担者として参加してみて気づくことができた。カセットテープ、DAT テープの劣化は深刻であり、その資料性を維持するためには早急なデジタル化が必要なのである。本研究では埋もれてしまっている貴重な資料の再発掘、つまりアーカイブス、データベースの構築が必要となった。

2. 研究の目的

(1) 松永・岸江は共に南九州、特に宮崎県における在来方言の臨地調査を積極的に行ってきた。その研究成果として『宮崎県言語地図集』(1998)、「宮崎県方言世代別分布地図」(2000)として報告してきた。その基礎資料となる音声資料(近年は動画も)の中には、調査項目以外の貴重な自然談話データが埋もれてしまっている。本研究では、これらの自然度の高い談話資料をデジタル化し利用可能なアーカイブス、データベースを構築し、プロソディ研究、談話研究資料として活かそうとするものである。更に、対面式の臨地調査も新たに加え、若年層、中年層との対照研究を可能なものにし、分析を進めることを企図するものである。

3. 研究の方法

(1) 調査データ(音声・動画)資産のデジタルアーカイブ化

①松永・岸江それぞれが保有する調査記録データ(カセットテープ、MD、DAT、8mm ビデオ、DV テープ)の整理とクオリティーチェック並びにラベリング

②アナログデータのデジタル化 ⇒ すべてのデータは大容量 HD ストレージに格納

③松永・岸江、両データの共有化

④自然談話部位の特定、切り出し、タグ付け

(2) 中年層、若年層への新たな臨地調査による高品位のデジタルデータ収集

1999 年「宮崎における在来方言の確認および現在の実態・意識に関する研究」(研究代表:加藤正信(1998)、松永修一(1999))で調査地域が薄かった宮崎県南部、鹿児島県大隅地方を中心に、県境域 15 地点。松永・岸江による臨地調査。

(3) 奄美大島、加計呂麻島、徳之島での臨地調査。

文字化は適切な資料選択を行った後、かなによる文字化をおこなう。注目すべき部分は音響分析を行い分析可能な資料としてタグ付を行う。

4. 研究成果

(1) 南九州、特に宮崎県・鹿児島県における在来方言の自然度の高い談話資料のアナログデータをデジタル化し、利用可能なアーカイブスとしてデータベースを構築し、プロソディー研究、談話研究資料として活かせるようにするのが、本研究の主な目的であった。

(2) 松永、岸江が臨地調査で収集してきた、カセットテープ、MD、8mm ビデオ、DV テープなどは、再生機器の維持が困難になってきた。これらのデータの資料性を維持するためにデジタル化をし、埋もれてしまっている貴重な資料の再発掘、つまりアーカイブス、データベース構築のため試行を行う過程で、新たな言語情報の抽出と集積、分析を目指すとともに、自然談話資料として、プロソディー研究の有用な資料として生き返らせることも可能になることも検証できた。併せて、音声資料の文字化によって資料の一般公開への機会を広げることも可能になった。

(3) 最終年度は、特に明治・大正生まれの話者による談話資料のデジタル化によってさまざまな研究に使えるよう公開の準備を整えることができた。また、新たに奄美での調査を進め、奄美大島本島だけでなく、周辺の島でも臨地調査を行い、46 地点の高品質な音声と映像による話者の発話情報を記録し、収集し最適化した音声データを用いた音声言語地図の準備を完了することができた。

(4) 今後、音声と文字化資料は DVD-Rom で

関係各所に配布するとともに、Web を用いて公開する予定である。また、奄美大島音声言語地図 も、紙媒体での公開とデジタル媒体での配布と、随時 Web での公開に移していく予定である。本研究で得られた知見の共有は、言語研究者のみならず、地域の方言を素材とした小中学校の総合学習の教材として、また地域活性化の援用資料として提供していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

①岸江信介・清水勇吉・ビクトリア・ブローネ
Geolinguistic Research by questionnaire in the Kyushu , pp.261-272, District Papers from The First International Conference on Asian Geolinguistics, 2012. 12

②松永修一、
宮崎県東諸県・西諸県地方の言語変化、論集 VIII、アクセント史資料研究会、査読有、2012

③岸江 信介ほか、
依頼に対する断り表現について、
言語文化研究、19 巻、査読なし、147-162、
2011

④岸江信介、「地域言語・方言」、日本語の研究、第6巻3号、105-113、査読有、2010

[学会発表] (計 2 件)

①岸江信介・清水勇吉・ビクトリア・ブローネ
Geolinguistic Research by Questionnaire in the Kyushu District、
The First International Conference on

Asian Geolinguistics、2012.12.4、青山学院大学

②岸江信介

地域言語のデータ処理の批判的検討と新展開、日本語学会、2011、2011.5.28、神戸大学

〔図書〕（計2件）

①松永修一

宮崎県都城市方言談話資料文字化編1、
十文字学園女子大学松永研究室、
2012

②松永修一

宮崎県日南市のことば文字化資料、
十文字学園女子大学松永研究室、
2010

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松永修一 (MATSUNAGA SHUICHI)

十文字学園女子大学

人間生活学部、准教授

研究者番号：40312318

(2) 研究分担者

岸江信介 (KISHIE SHINSUKE)

徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・

サイエンス研究部 教授

研究者番号：90271460